

* 炊き出し・物資支援行動

(1) 初めての炊き出し支援 4月26日(火)

一時孤立し、被害がひどかった陸前高田市にある広田半島。そこにある慈恩寺の大広間に避難している方や周辺の自宅避難の方80人に、農民連の支援物資を中心に献立を考え、豚汁・きんぴら、肉じゃが・浅漬を盛岡で調理して届け「いっぱいありがとう」と喜んでもらえました。母連や新婦人、消団連、いわて生協のお母さんたち10人が、ごぼうで手を真っ黒にしながらか手際よく主婦パワーを発揮して、おいしい手作り料理を作りました。

当日は本当に届けてもらえるか心配した責任者の方から何度も電話をもらいましたが、何回か通ううちに顔も心もつながり、その後毎週支援物資を届け、お母さんたちと話しています。

(2) 喜ばれた野菜支援 5月2日(月)

広田半島の付け根にある長洞地域に野菜を運びました。全国の農民連から届けられた、ほうれん草や小松菜、にら、ネギ、キャベツ等を2台の乗用車にはちきれんばかりに積んで向かいました。公民館が流されたため、町内会長宅ともう1軒、2軒の個人の家が物資センターになっている地域です。大船渡側の門野浜湾と陸前高田側の広田湾の両方から津波が押し寄せた地域で、下のほうにある住宅が舐めたように何にもなくなってしまった部落です。漁港を持つこの地域は漁業で生計を立てている人が多く、結束が強くコミュニティがしっかりしています。丁度、地域内に仮設を建てるために住民が行動する姿を追ってNHKの取材が入っていました。この日は、半島内の慈恩寺、黒崎地域にも野菜を届けました。「ニラが食べたかった」「小松菜がうれしい」と、野菜は大歓迎でした。

(3) “190食” 初めての弁当支援 5月10日(火)



避難所の栄養失調が報道され、心配して聞き取りしたら報道以上の内容の貧しい食事実態がわかりました。成長期の子どもの偏りを心配する声も多いため、広田半島で一番避難者の多い広田小学校の避難所に、栄養豊かな弁当を届けることにしました。

要望の多かった鶏の唐揚げと魚(さばの味噌煮)を入れ、全国の農民連からの支援物資“鶏の卵の水煮”やきくらげ、しいたけを生かして具たくさんの八宝菜ときくらげときゅうりの酢味噌和えも

入り栄養もボリュームも彩りも満点の豪華?手作り弁当が何とか出来上がりました。炊飯と煮魚とから揚げの半分は心配したいわて生協の配食サービスがボランティア調理を買って出してくれ、後はボランティア“ママパワー”で初挑戦に成功しました。暖かくなってきたので、いわて生協の共同購入トラック(2t車)を借り上げ、保冷剤を入れたシッパーに弁当を入れ、3時間かけて運搬します。運転もボランティアの柳原正志さん、食缶の味噌汁がこぼれないように慎重です。「本当に来てくれるか心配だった」「楽しみに待っていた」と校門まで出迎えを受け大歓迎されました。この2ヶ月、仮設テントや家庭科室等条件の悪い所で、何百食も作り続け「慣れたけど、疲れた」とお弁当の要望が圧倒的でした。

(4) お弁当がいい“110食”の弁当支援 5月17日(火)



おいしそうな弁当の完成です。弁当がいいと要望を受けて、高田町の米崎小学校の避難所に60食、慈恩寺に50食の弁当を8人で作りました。

今回はボランティアが少なかったので、2ヶ所に押さえ、高田1中には乳製品と納豆等支援の物資をいわて生協の共同購入トラックに積んで出発です。



←広田小学校の校庭に建設中の仮設住宅。子どもたちはちょっとの広場でも元気・・・

(5) お弁当がいい“420食”に挑戦 5月24日(火)

5月24日には、県内で一番大きい避難所である高田一中に420食の夕食弁当の炊き出しを行うことになりました。一時は千人を超えた避難所ですが、今は400人まで減っています。この2ヶ月中心になって食事の世話をしてきた保育園の栄養士の佐藤夕子さんは、何とか栄養のあるもの、おいしいものを食べさせて元気をと、全国に食材支援を訴えてやりくりしてきました。その佐藤さんも「配るだけですむ弁当がいい」と疲れをのぞかせていました。焼き魚やコロッケをいわて生協の店舗に頼み、酢の物や切干大根の煮物、焼肉であれば30人のボランティアで出来ると計画中です。

(5) 大槌町にも弁当炊き出し開始 5月26日から木曜日行動

いわて生協は「東日本大震災」の義援金と支援カンパを組合員に訴え、2,700万円ほど集まりました。2千万円は義援金として県に、残りは被災した取引業者の見舞金や炊き出しなど支援に使わせてもらう事が理事会で決まり、火曜日の炊き出しは“いわて食・農ネット”“いわて生協”の共同で、木曜日はいわて生協単独で大槌町に弁当炊き出しを行い、組合員の支援金を使わせてもらいます。

* 避難所の食事～もともとは短期の緊急対応制度

こんなに長く大勢の人が避難所で暮らすことになった「東日本大震災」では、貧弱な食事による栄養失調が問題になっています。災害救援法で自治体が状況に応じて一人千円程度に決められた予算で手当てすることになってはいますが、陸前高田市や大槌町のように、庁舎が全壊し、多くの職員が亡くなった所は大変です。配給される食料は、米をはじめ大量に仕入れることができ、保存がきくレトルト食品や缶詰、佃煮、カップ麺等で、水のないところはペットボトルも入ります。最近野菜が入りますが、3食を補うには足りません。そのため、農民連や各団体が全国から寄せられた食料を配り、炊き出しをしています。今は、栄養が行き届き、避難所で手間がかからない弁当炊き出しが中心です。